



## スマホを工夫する

考查一週間前になったが、放課後の教室からは遊んでいるような声が聞こえてくるし、昼休みは歌声だしで、多少心配な面がないでもないのだが、一方、前の現代文の授業の時に、最後15分くらい時間があまって自習にしたら、静かに集中して自習ができていたから、やはり昨年までとは違ってきているのかなという印象もないではない。

さて、この前の保護者会でも話題になったが、勉強の敵といえばスマホである。考查前になって、自分なりに使い方を工夫しているだろうか。帰宅後は自分の勉強部屋に持ち込まない（充電器を自分の勉強部屋以外に置いておく）といったことが、もっとも手っ取り早い対処法だと思うが、まだやっていない人はチャレンジしてみてもはどうだろう。

同時に、クラス全体としても使い方を工夫することが大切だ。必要な連絡以外、この考查期間は共有しないようにするとか、それも時間を限って共有するとか、まあすでにそういうことをしているのかも知れないが、個人で克服することが難しい課題については、クラス全体で取り組むようにしてほしい。それが結局はクラス全体の成績を押し上げ、最終的な成果にも結びつくはずである。

これも保護者会の時にちょっとお話申し上げたのだが、3年生も後期になると、行事も終わって必要な連絡も激減することから、スマホを解約する、あるいは契約内容を変更する生徒が出てくるようだ。自分の手元にある限り、その魔力に勝てないという人は、それを手放すしかないわけだ。いつまでも魔力に縛られ続けて、結局浪人することにでもなってしまうと、さらにもう一年、その魔力と戦

わなければならないことになる。その辺のことを十分に考慮して、必要な時期になったら思い切って一念発起すべきだろう。

解約してしまっただけでは、例えば入学試験当日に何かあったり、急に連絡する必要が生じたりした場合に困るかも知れないと心配な人もいだろうが、そういう時だけは、おとーさんかおかーさんのスマホを借りて出かければよいのである。だから、解約や契約の変更に当たっては、その辺についてもおとーさん、おかーさんに相談しておくとういだろう。

\*

同じ授業を受けていても、合格する人と不合格の人が出てくる。それは予備校のカリスマ講師の講座生でも同じである。つまり、「教える側」がいくら一生懸命努力しても、「教える側」がそれに応えてくれなければ効果はないということだ。模試の成績がよかったのに、蓋を開けてみたらよい結果が得られなかったという人が、残念ながら毎年必ず数名ずついるわけだが、その顔ぶれを思い浮かべてみると、やはり「教える側」に問題があった諸君が多いという印象はぬぐいきれないのである。

日比谷に来て君たちも分かっていると思うが、イイ成績を上げている人は、やはりまじめに努力している人だろう。世の中には「天才」と言われる人もいるが、日比谷にいる諸君はほとんどがまじめな努力型の人である。

スマホの件も以上の事情に連動している。いくらアドバイスしても、それを「受け取る側」がまじめに行動しなければ、結果は推して知るべしなのである。さあ、どうする？